

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	4790100079		
法人名	有限会社 ヘルスサポート		
事業所名	グループホーム若狭の家		
所在地	〒900-0031 沖縄県那覇市若狭3-4-10 3F		
自己評価作成日	平成23年9月5日	評価結果市町村受理日	平成23年12月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=4790100079&amp;SCD=320&amp;PCD=47">http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=4790100079&amp;SCD=320&amp;PCD=47</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社 沖縄タイム・エージェント
所在地	沖縄県那覇市曙2丁目10-25 1F
訪問調査日	平成23年10月14日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

地域の行事への参加やイベントに地域の方に参加して頂いています。地域と共に生活ができるように支援しています。ゆっくりとした生活で安心して過ごせます。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

1階にあるいきいきゆんたくサロンを地域の方へ開放し、フォークダンスクラブ等5つのサークルが活用している。法人関連施設が近くにあり、2階にある小規模多機能型施設と連携し、会議や行事が合同で開催され医療機関が地域の方の健康管理を行い、災害訓練への参加協力を得ている。自治会主催の行事も豊富にあり、文化祭りや海浜公園祭りに職員と一緒に利用者也準備の段階から参加し、地域の方との良好な関係が築かれている。サービス担当者会議に本人や家族が参加して見直しが行われ、利用者本位の居室作りや食事作りに力を入れている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが ○ 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者様の支援に対して、利用者様の生活暦や希望を元に支援を行えるよう、迷った時は理念の通り本人らしい生活を送れるように支援し、実践しています。	2年前新たに全職員で、地域密着型としての「地域に根差した支援」という理念を作成し、目標達成計画に掲げた理念の共有に関して、今年度よりチームによる理念の共有を実践している。モニタリング時やケア方法に迷いが出た時に理念に立ち返り支援に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域の行事への参加や事業所の行事に地域の方を招待し、日常的に交流しています。	地域で開催される公民館祭りや、自治会の敬老会に準備のお手伝いから利用者と職員が出向いて行き、誕生会の余興参加やエイサー見学を通して地域の方と交流をしている。1階にある地域交流室を地域の方へ開放しサークル活動が行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	まだ、活かさきれていない。今後、検討し地域に向けて活かして行きたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所での取り組みを報告し、そこで出された意見等は、真摯に受け止めサービスの向上に活かすよう努めています。	利用者、家族、市担当職員、自治会長、民生委員、職員が2ヶ月に1回参加し、外部評価についての話し合いが持たれ災害時の避難経路を検討している。運営推進会議が小規模多機能型事業所と合同で行われていたが、具体的な取り組みを活かすため単独での開催となった。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者とはいつでも連絡の取れる体制を築いている。協力して支援できるように協力関係はある。現状以上の協力体制は、市町村に問い合わせている。	市担当職員や包括支援センターの担当者と電話等で、介護保険で利用できるサービスや困難な方の受け入れについて意見交換を行っている。管理者は市担当者に事業所で開催される行事にも参加して欲しいと呼びかけている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。転落防止の為、Y字拘束帯を使用していたが、姿勢が矯正され取り外す事ができた。	身体拘束に関する勉強会に夜勤以外の全職員が参加している。車椅子からずり落ちる利用者の家族から、Y字拘束帯使用の希望があったが、リスクについて話し合い同意書を作成した。拘束帯の実施時間を最小限にし、観察することにより姿勢が正され拘束することなく座れる様になった。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者の身体の観察や日常生活に注意を払い、防止に努めている。		

沖縄県(グループホーム若狭の家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会を持ち、活用できるように努めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	説明し理解・納得を得るよう努めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に参加して頂いています。また、意見箱を設け意見を出しやすい環境を整えています。	職員は利用者が思いを伝え易いような言葉かけに努め、好みの食事や食べたい場所を聞きサービスに反映させている。投書箱を設置しているが投函がなく、家族向けのアンケート用紙を作成し、実施予定である。家族交流会を開催したが参加者が少なかった。	家族間の意見交換や要望を直接話せる家族交流会への参加について、日程等を調整し、バーベキューで家族が参加し易いよう再度取り組む計画である事から今後の支援に期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝の申し送り時に意見交換を行っています。勉強会後に意見の交換等も行っています。	職員は異動もなくほぼ定着している。管理者は、朝の申し送り時や勉強会等に職員から要望を求めているが、運営に関する意見が少ないため、管理者は職員の意見を聞く機会を増やし個別計画に反映させたいと考えている。	管理者は、職員が意見を言い易くする工夫が必要と感じていることから、今後は職員からのアイデアや意見がより一層反映されるよう個別面談等の取組みを期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は日常の職員の勤務態度を評価し、上司に報告する。また、実践者研修等、本人がステップアップできる研修を用意する。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修を受ける機会がある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	多くは無いですが、交流する機会があります。また、法人内での相談等は、できる環境です。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ゆっくりと話しを聞き、受容・共感に努めています。また、安心感を与えられるように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	傾聴し受容と共感の姿勢でのぞみ信頼関係を築く努力をしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他のサービスも案内し、家族に決めて頂いております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	築くよう努めています。時には、母になり、友になり、子供になりケアしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	その時々様子を情報交換しながら、家族にも協力して頂いております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族に協力して頂き、できるだけ努めています。	利用者の希望により、市場へ職員と一緒に出掛けた際、店主よりなじみの客で何度も来店された様子を伺うことができ家族へも確認をした。、本人と家族が行きつけの美容院へ出掛ける支援に努めている。民生委員や親戚、友人が事業所を訪れ会話を楽しんでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々を理解し、互いにできる事をして頂き支えてもらっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要があれば、相談や支援に努めます。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望、意向、生活暦の把握に努め、本人らしい生き方の支援に努めています。	利用者の希望により、居室で静かに過ごしたい方や、共同作業を行いたい方等本人に確認し思い思いの過ごし方を支援している。意思の疎通が困難な方は、表情やしぐさから外出を希望しているのかトイレへ行きたいのか等を汲み取りサインを見逃がさないよう支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族から情報を得て、環境やサービスの適正をモニタリングし把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の日常生活の過ごし方等を観察し、現状の細かな状態の把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議で話し合い、現状にあった介護計画を作成している。	利用者や家族と共に職員が、計画や見直しを3か月に1回定期的に行い、食事の形態等変化のある度に随時見直しも行われている。利用者の好きな音楽や踊り等をリハビリに取り入れていることにより、利用者のリハビリに対する意欲が向上した。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員間でも情報交換・共有を行っており、実践や介護計画に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	とりあえずやって見ようという気持ちで行っています。柔軟に対応しています。		

沖縄県(グループホーム若狭の家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一人一人が暮らしを楽しむ事ができるよう支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族にかかりつけ医を選んで頂き、適切な医療が受けられるように訪問診療・訪問看護の情報を家族や医療機関に提供しています。	昔からのかかりつけ医を継続して受診している方は3名で、残り6名の方は協力医療機関からの訪問診療を受けている。専門外来や家族の協力が難しい場合は管理者が通院介助を支援している。その際には普段の利用者の様子を口頭で医師に伝えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	個々の情報を提供し、相談したりアドバイスを頂いています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	協力して頂いている医療機関との連携を図っています。また、それ以外の医療機関にも情報提供が行える体制があります。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に説明を行っております。まだ、対象となる方がいらっしゃらない為、深く話し合いはありません。個々に合わせた支援を行っていく予定です。	現在重度化や終末期の対応が求められる利用者はみられない。利用契約の際には家族に「医療連携体制加算」の説明と合わせて、医療的なケアが必要な場合は事業所での看取りが難しいことを伝えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	回数は少ないが勉強会は行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	事業所内で定期的に訓練し、地域との協力体制も出している。	2階小規模多機能事業所と合同で年2回火災を想定した避難訓練を実施している。普段より顔馴染みの民生委員等地域住民も訓練に参加して利用者の避難誘導に協力している。現在スプリンクラー設置に向けて市町村と最終確認をしているところである。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人を理解し対応できるよう努めています。更に意識し、プライバシーを損ねない支援を心がけています。	一人一人のこれまでの生活情報や普段の生活からその人の性格に合わせた声かけを心がけている。少しきつい言葉かけが職員に見られた時には、管理者は利用者の傍に行きその利用者を尊重する声かけを職員の前で示している。個人情報を利用者の目に触れない場所に管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	分かりやすい言葉で声掛けしたり、本人の行動を制限せずに見守り、希望や思いを出しやすい環境を作り、自己決定できるように働きかけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースで生活できるよう支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧品の買い物と一緒にいたり、日常生活での身だしなみの支援をしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員にて季節にあった食事などを工夫し、提供しています。利用者に盛り付け等の無理なくできる事をお手伝いして頂いています。	毎食とも職員が献立を考え事業所内で食事を作っている。利用者と職員は同じ食卓を囲み一緒に食事をとっている。副食の内容を調理した職員が利用者に説明しながら食事の会話の話題としている。もやしのひげとり等の下ごしらえや食器拭き等を利用者に手伝ってもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	量を記録し管理しています。また、本人にあった物を提供できるよう支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人で出来ない方は介助を行い、できる方は声掛けを行っています。		

沖縄県(グループホーム若狭の家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者からのサインを見逃さないようにし、自立に向けての支援を行っています。	一人一人の毎日の排泄状況をチェック表で把握している。利用者に合わせたトイレへの声かけを行い、オムツ利用者も日中はトイレで誘導して支援している。現在昼間トイレの場所を間違えてしまう利用者に対して個別の支援内容を職員間で検討している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動や食事の工夫に取り組んでいます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	意思表示ができる方は、本人で決めてもらっています。意思表示ができない方は、声掛けを行い決まった時間で支援している。	入浴は原則一日置きに設定しているが、利用者の希望により寝る前に入浴できるよう職員で見守りをしている。入浴を拒否する利用者には、「芝居を見に行く。買い物に行く。」等利用者の納得が得られるような声かけを行い入浴に誘っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者のペースで支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	努めており、必要であれば病院受診時に情報を報告します。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	普段の生活の中でも声掛けや誘導にて行っております。小規模多機能型と交流や協力してイベントなどを提供しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族に協力して頂き、できるだけ努めています。	これまで日常的に利用者と一緒に散歩を兼ねて買い物に出かけていたスーパーが休業となり、現在近隣に外出する機会が少なくなっている。地域の行事の時には積極的に事業所から外に出かけている。家族が迎えに来て外と一緒に食事に出かける利用者も見られる。	



沖縄県(グループホーム若狭の家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	できる方は、一緒に買い物に行くなどして支援しています。本人でお金を管理して頂いており、職員では管理していません。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族から同意頂いている方は、本人の希望により支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	混乱を起こさないように環境を変えないようにしています。	利用者自身の座席が決まっており、普段から食事以外にも食卓に座り、公文書の計算ドリルをしたりあるいはゆったりとくつろげる場所となっている。台所・食卓・居室等ホーム内において日常的に食事の匂いや人の気配が感じられ、家庭的な雰囲気のある共用空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間は食堂のみで、食堂で交流されている。一人で過ごしたい場合は、お部屋へ戻られています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅から持ち込み居心地良く過ごされている方もいるが、安全確保のため一部取り除かれた方もいます。できるだけ本人の過ごしやすい環境を工夫しています。	これまでの利用者一人一人の生活の暮らしにおいて馴染みのある私物が居室に持ち込まれている(仏壇・洋服・椅子等)。家族が面会に来られた時には利用者の居室と一緒にくつろいでいる。利用者にとって危険に結び付くものは事前に取り除いている(コンセント等)。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	努めています。		